四国への移住に関するアンケート調査結果

平成 26 年 2 月

四国経済連合会

目　次

Ⅰ　アンケート実施要領　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　調査結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　調査結果からの示唆　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

Ⅰ　アンケート実施要領

１．調査目的

四国への移住意向を持つ大都市圏在住者を対象に、移住の動機や移住にあたっての課題などを調査し、「人を惹きつける魅力あるまちづくり」を考える基礎資料とする。

２．調査方法

・調査会社を通じたインターネットによるアンケート調査。
・地方への移住意向を持ち、かつ、四国を移住先候補のひとつに考えている人を予備調査で抽出し、そのうちの500人を対象に本調査を実施した。
〔調査期間：平成25年11月～平成26年1月〕

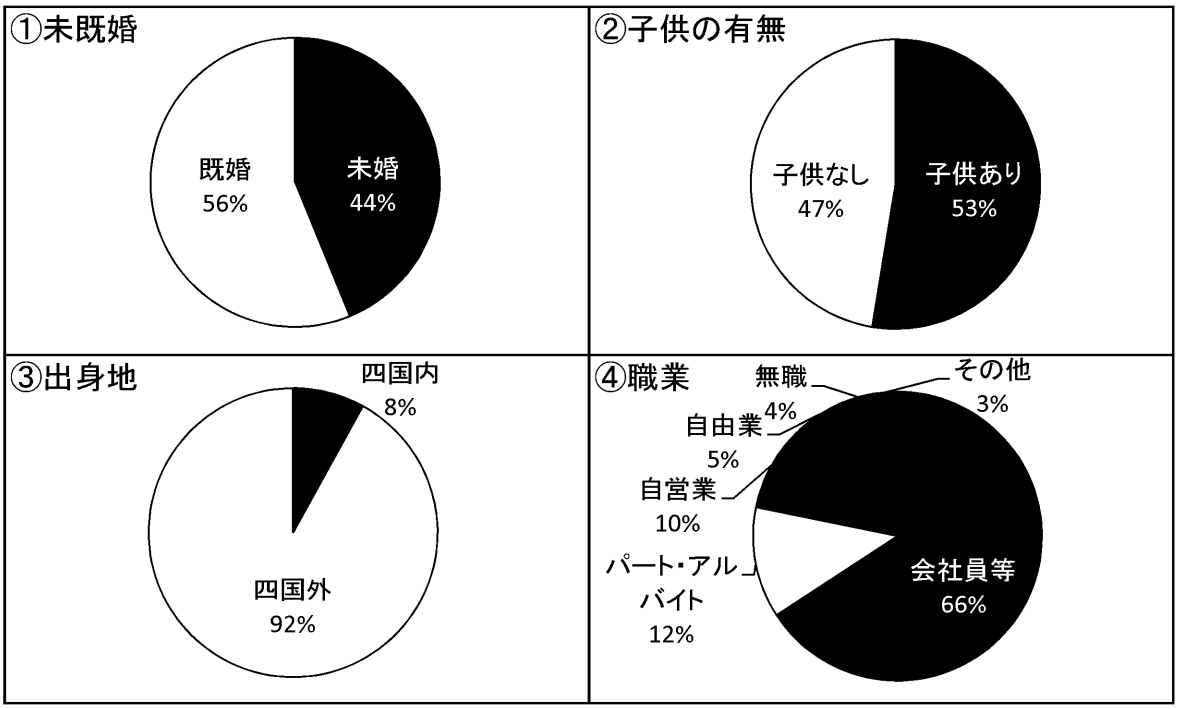
３．調査対象500人の内訳

関東圏(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)、関西圏(京都府、大阪府、兵庫県、奈良県)に在住し、現在、就業している20歳代～60歳代(60歳代は無職を含む)男女500人〔男性78%：女性22%〕。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計
	100(20%)	100(20%)	100(20%)	100(20%)	100(20%)	500(100%)
関東圏	50	50	50	50	50	250
関西圏	50	50	50	50	50	250

４．回答者の属性

N=500



Ⅱ　調査結果の概要

①　大都市圏在住者のうち、地方への移住を考えている人は 17%。さらに、四国を移住先候補のひとつに考えている人は 3.6%（予備調査）。四国への潜在的な移住希望者は多い。

②　地方に移住したい最大の理由は、「自然豊かな環境で暮らしたい」が最も多い(61%)。

③　移住先として考えている地域は、「都市部」でも「山間部」でもなく、「都市郊外」が最も多い(56%)。自ら生活するうえでも子育ての面からも、自然が身近で、都市機能にもアクセスしやすいところに住みたい意識が強いと考えられる。

④　移住先候補として四国内だけを考えている人は２割。８割の人が移住する地方を特定していない。

⑤　四国を移住先として考えたきっかけは、「旅行などで訪れた時の印象」が最も多い(44%)。住んで良し、訪れて良しの四国づくりが重要。

⑥　四国の魅力としては、「気候が温暖」「自然豊かで景色が美しい」「魚貝類や野菜・果物などが豊富で美味しい」を挙げる人が６割～７割と特に多い。こうした四国の魅力を再認識し、これをベースにした地域づくりが重要。

⑦　大都市圏から四国へ移住するうえでの懸念は、「一定の収入レベルが確保できるか」が最も多い(49%)。特に、若い世代の懸念が強く、雇用の場の拡大努力や自治体等によるマッチングなどの就業支援サービスの充実が必要。

　次いで多い懸念は、「生活の利便性・快適性が低下しないか」(43%)。四国への生活環境で不十分だと思うものとしては、「バス、電車などの日常の移動手段」や「医療、介護などの高齢者が安心して暮らせる環境」を挙げる人が多い。四国ならではの魅力あるまちづくりを進め、地方に不足する機能を補うとともに、より安心して暮らせる高齢社会を構築してゆくことが重要。

⑧　四国に移住した場合の仕事としては、「会社員・公務員」を希望する人が最も多い(42%)。「新たに起業」を考えている人も 16%おり、地域が抱える様々な課題の解決を図っていくうえで、起業意欲を持った移住者の役割が期待される。

⑨　四国での仕事に関する情報について、約６割が不足していると感じており、企業の合同説明会や自治体から情報を入手したいと考えている人が多い。

Ⅲ　調査結果

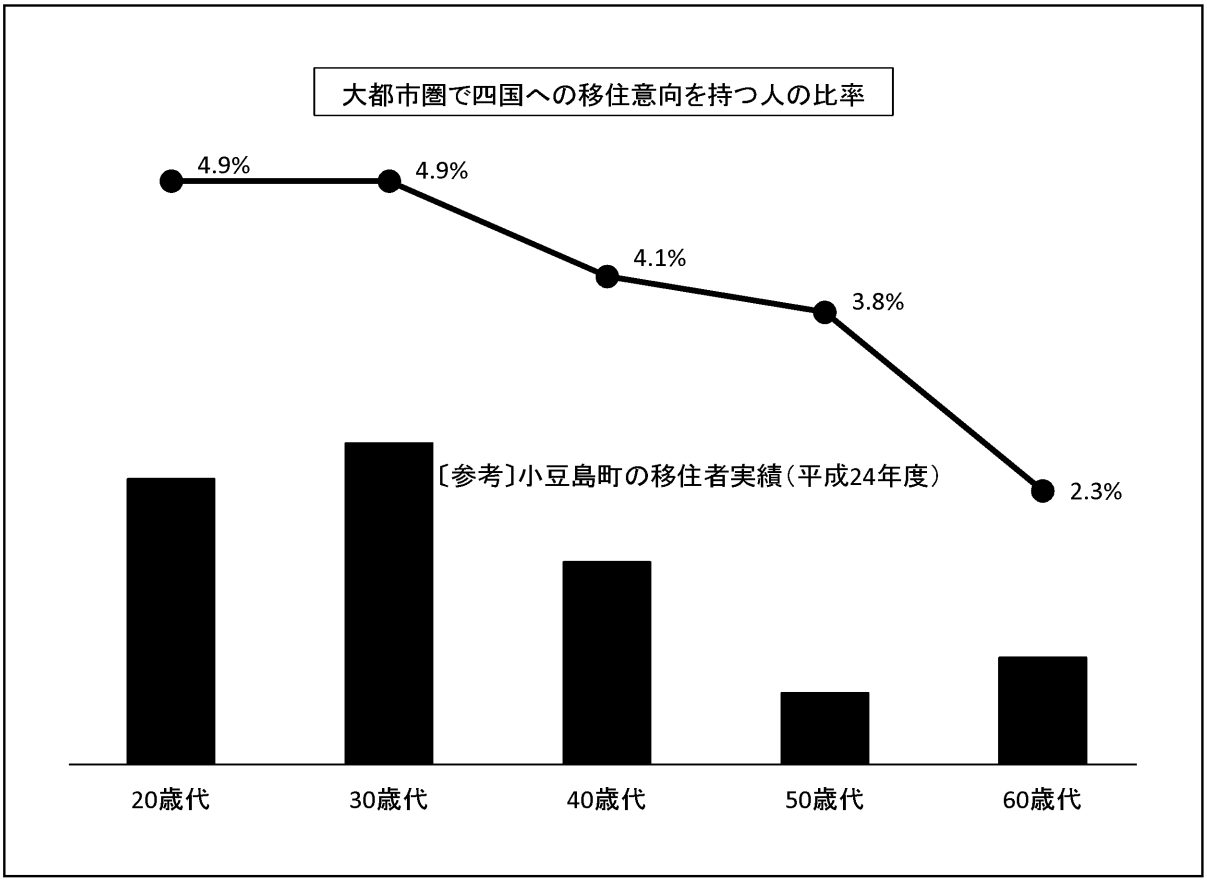
（予備調査－四国への移住意向を持つ人の抽出）

問１）近い将来、地方への移住を考えていますか。
問２）有力な移住先候補として四国を考えていますか。

・予備調査に回答のあった人のうち、地方への移住を考えている人は約17%。さらに、四国を移住先候補のひとつに考えている人は全体の3.6%。

・四国への移住意向を持つ人の比率は、若い年代が高く、年齢が上がるほど低い。

	全回答数	問1 YES		問1、2 YES	
	(A)	該当者(B)	(B)/(A)	該当者(C)	(C)/(A)
	27,767	4,601	16.6%	1,004	3.6%
20歳代	2,885	640	22.2%	140	4.9%
30歳代	4,146	769	18.5%	203	4.9%
40歳代	4,978	825	16.6%	205	4.1%
50歳代	6,051	1,099	18.2%	229	3.8%
60歳代	9,707	1,268	13.1%	227	2.3%



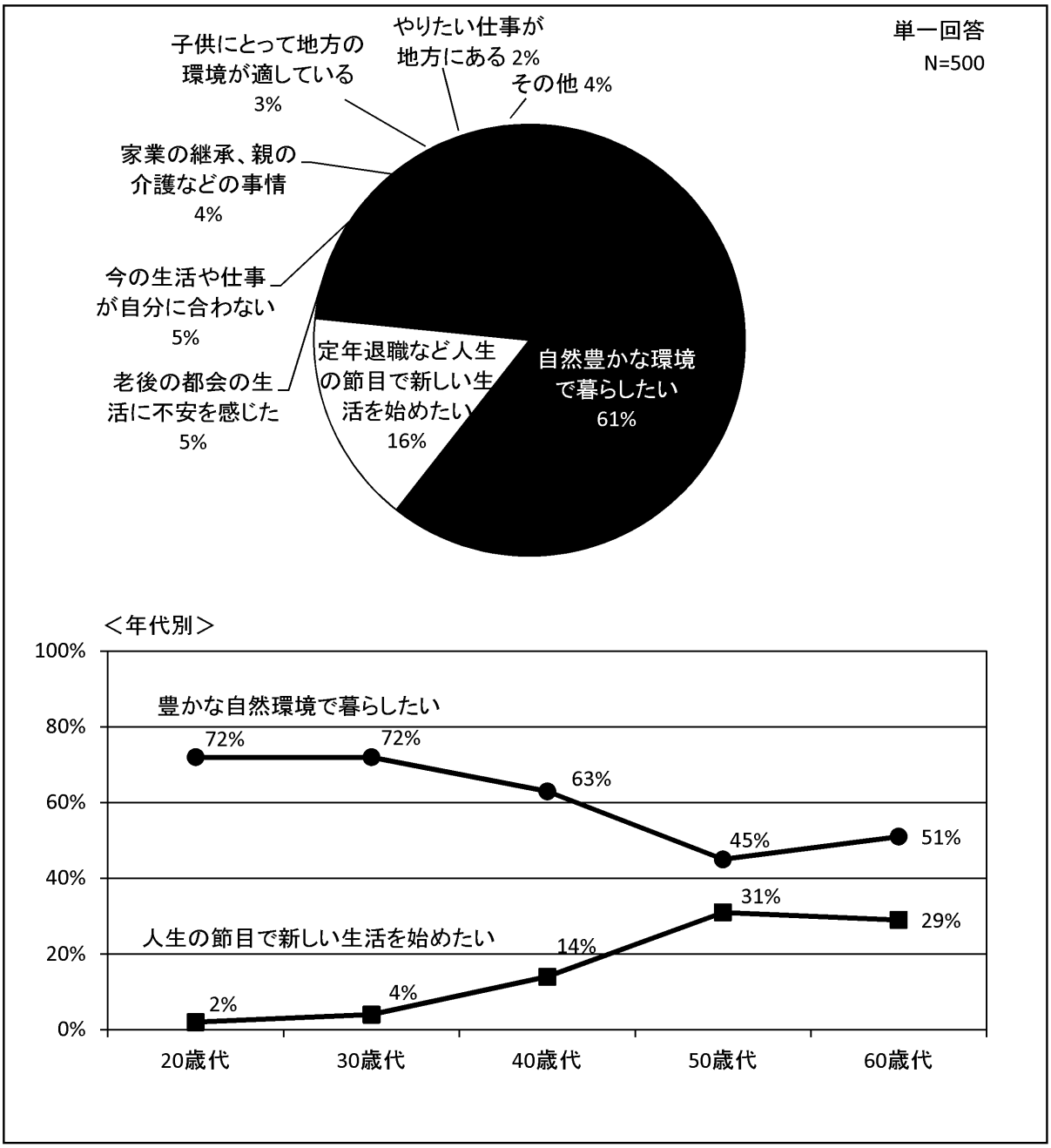
（本調査－四国への移住意向を持つ500人を対象にした調査）

１．移住の理由

問）地方に移住したい最も大きい理由は何ですか。

・「自然豊かな環境で暮らしたい」が最も多い(61%)。次いで、「定年退職など人生の節目で新しい生活を始めたい」(16%)となっている。

・「自然豊かな環境で暮らしたい」は、20歳・30歳代では７割以上を占め、「人生の節目で新しい生活を始めたい」は、50歳・60歳代で多い。

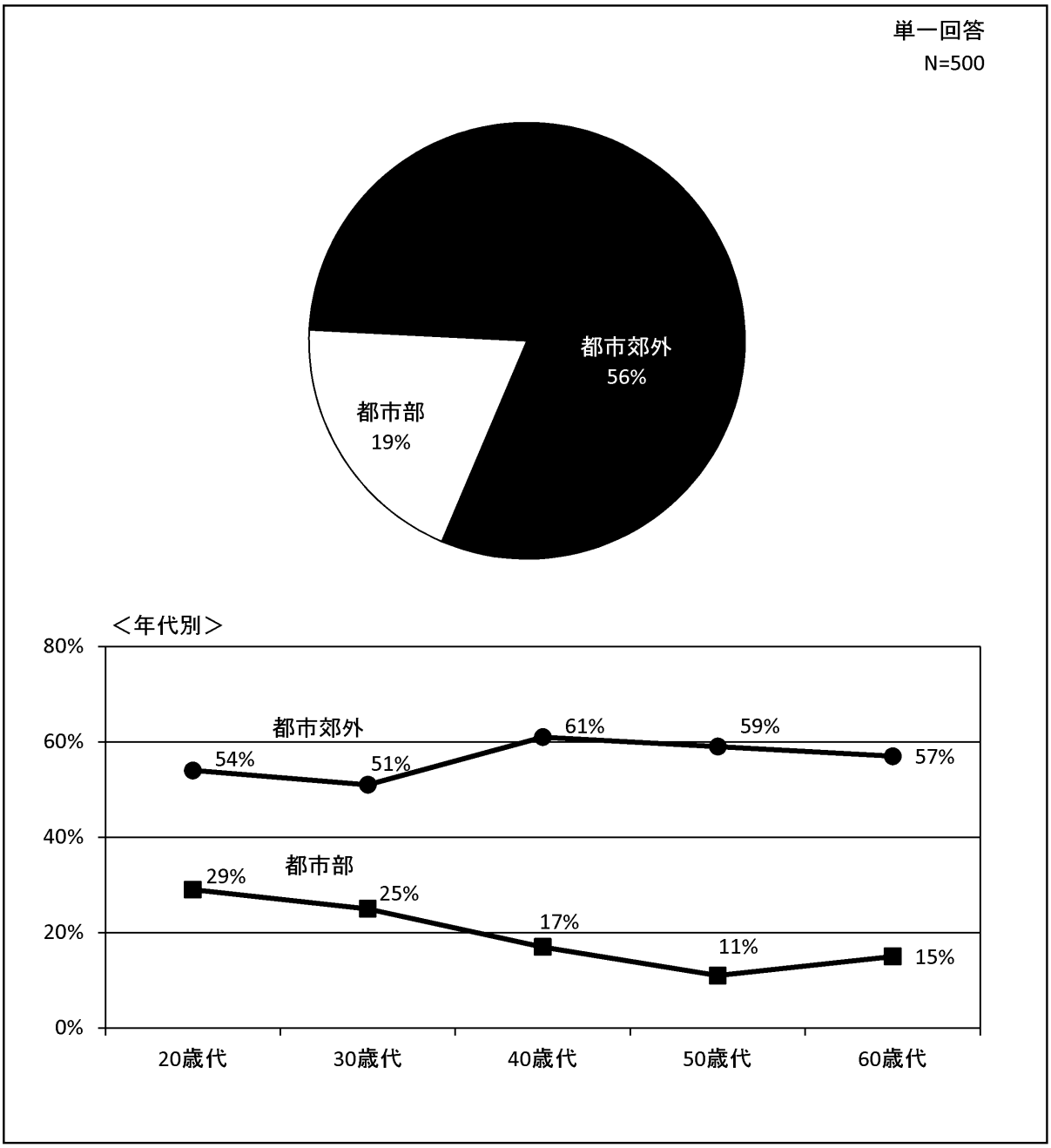


２．移住先（地域）

問）移住先として、どのような地域を考えていますか。

・都市郊外を希望する人は56％を占め、全年代とも最も多い。自ら生活するうえでも子育ての面からも、自然が身近で、都市機能にもアクセスしやすいところに住みたい意識が強いと考えられる。

・都市部を希望する人は、20歳・30歳代で比較的多い。

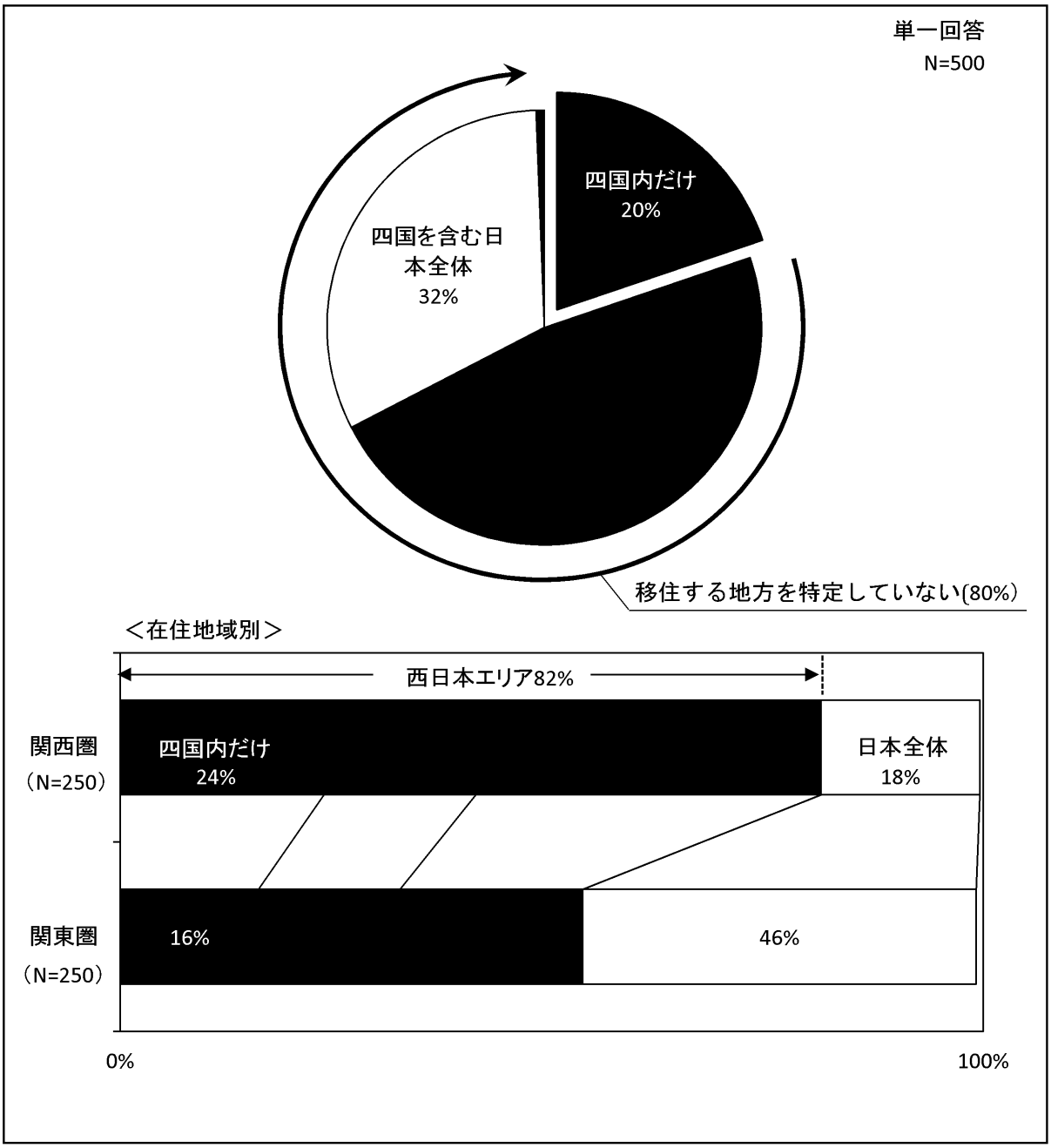


３．移住先（地方エリア）

問）移住先候補として四国以外も考えていますか。

・四国内に限定して考えている人は２割であり、８割の人が移住する地方を特定していない。

・関西圏の人は、約８割が西日本エリアを移住先として考えているのに対し、関東圏の人は、半数近くが日本全体を対象に考えている。

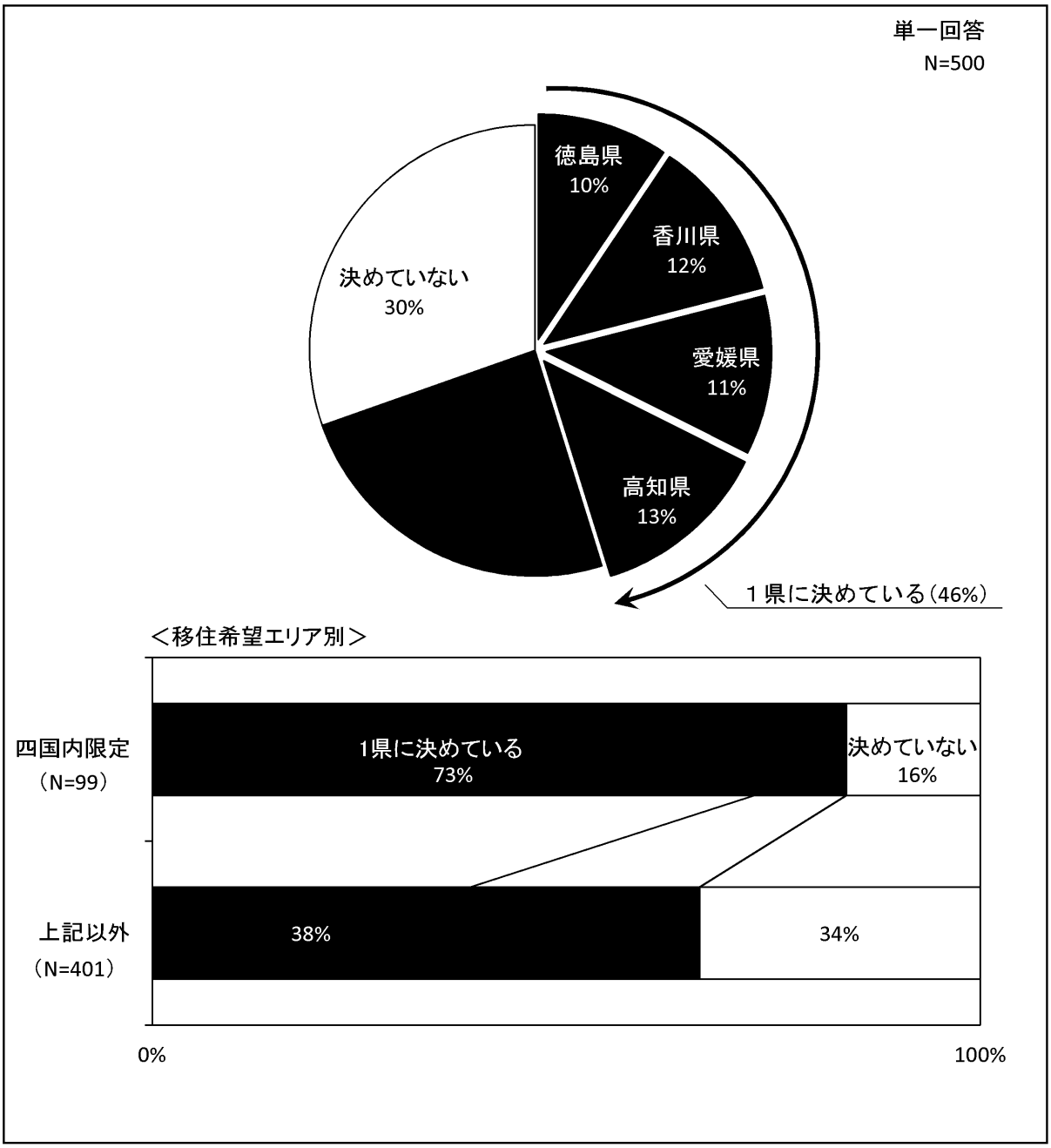


４．移住先（四国４県）

問）四国のどの県に移住を考えていますか。

・半数近く（46%）の人が、四国に移住する場合の対象を１県に決めている。
　４県間の大きな差はない。

・四国に限定して移住を考えている人は、約７割が移住先県を決めている
　一方、それ以外の人は、約６割が四国での移住先県を絞りこんでいない。

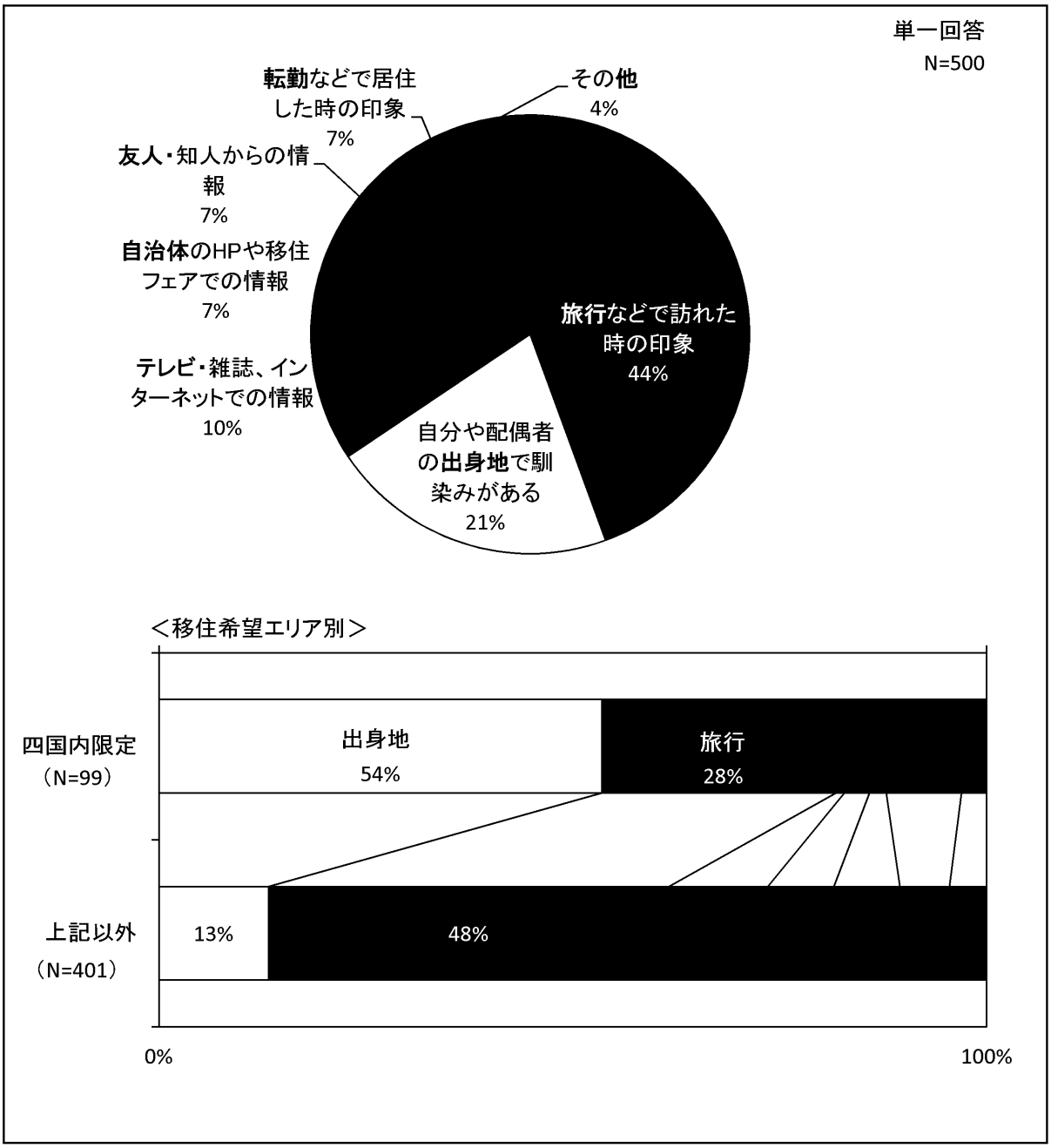


５．四国を考えたきっかけ

問）四国を移住先として考えたきっかけは何ですか。

・「旅行などで訪れた時の印象」がきっかけとなった人が最も多い(44%)。次いで、「自分や配偶者の出身地で馴染みがある」(21%)となっている。

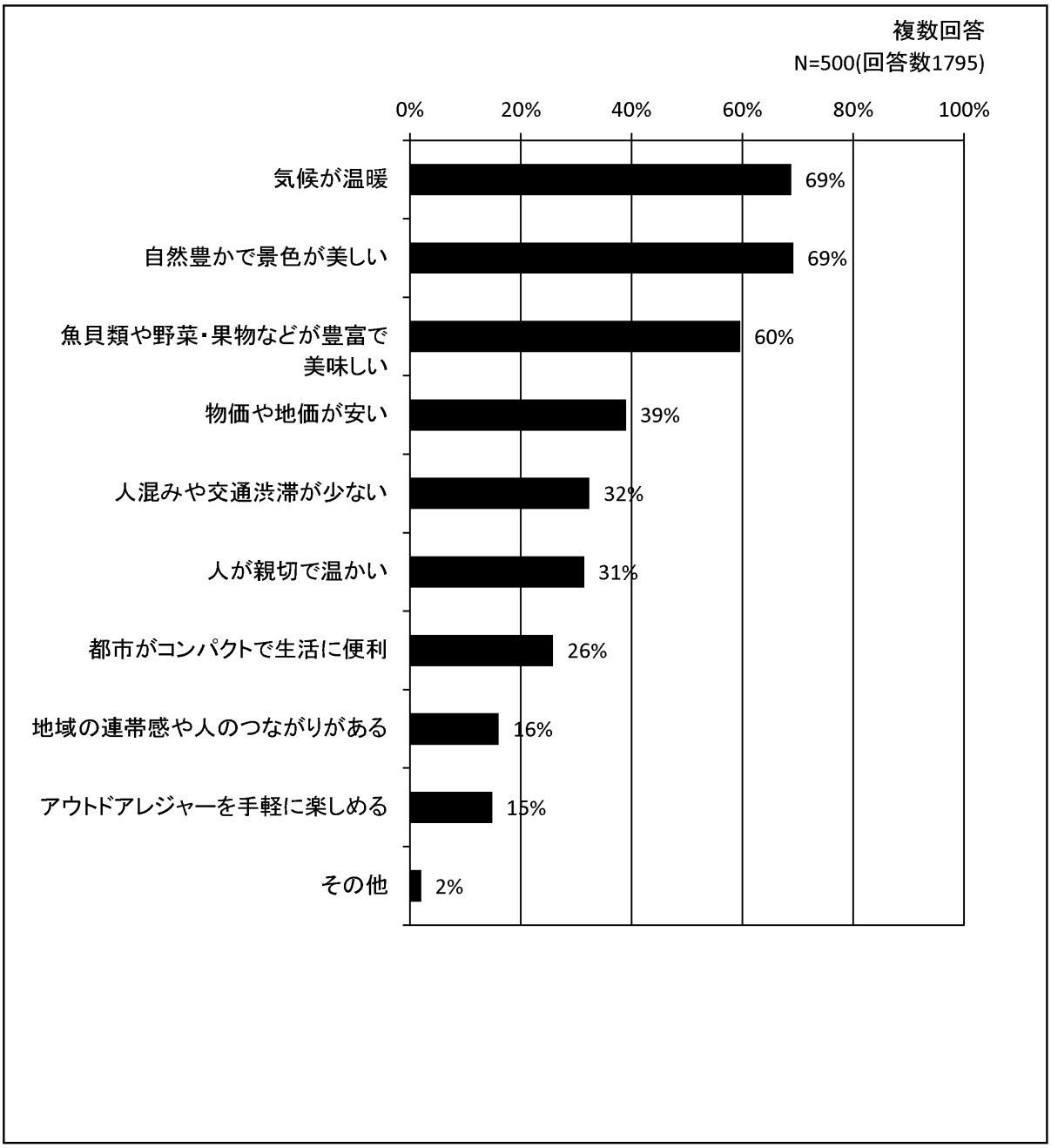
・四国内に限定して移住先を考えている人は、出身地であるという理由が最も多い(54%)が、旅行がきっかけとなった人も約３割いる。



６．四国の魅力

問）特に四国の魅力と感じていることは何ですか。

・「気候が温暖」「自然豊かで景色が美しい」「魚貝類や野菜・果物などが豊富で美味しい」が６割～７割と特に多い。

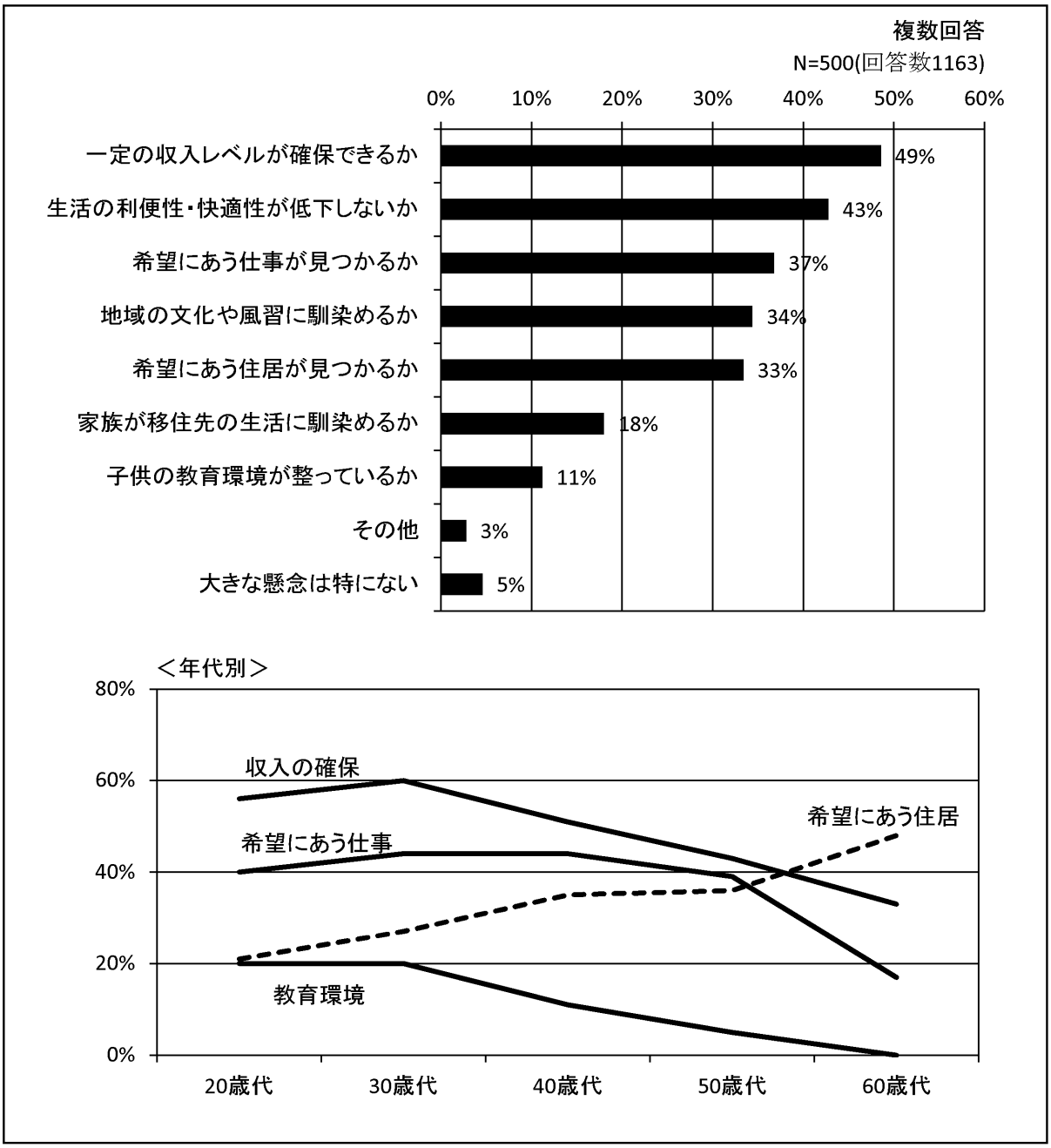


７．四国に移住する懸念

問）四国へ移住するうえでの大きな懸念は何ですか。

・「一定の収入レベルを確保できるか」を懸念する人が最も多い(49%)。
次いで、「生活の利便性・快適性が低下しないか」(43%)となっている。

・20歳～40歳代では、収入や仕事、教育環境に関する懸念が強く、年齢が上昇するほど、住居に関する懸念が多くなっている。

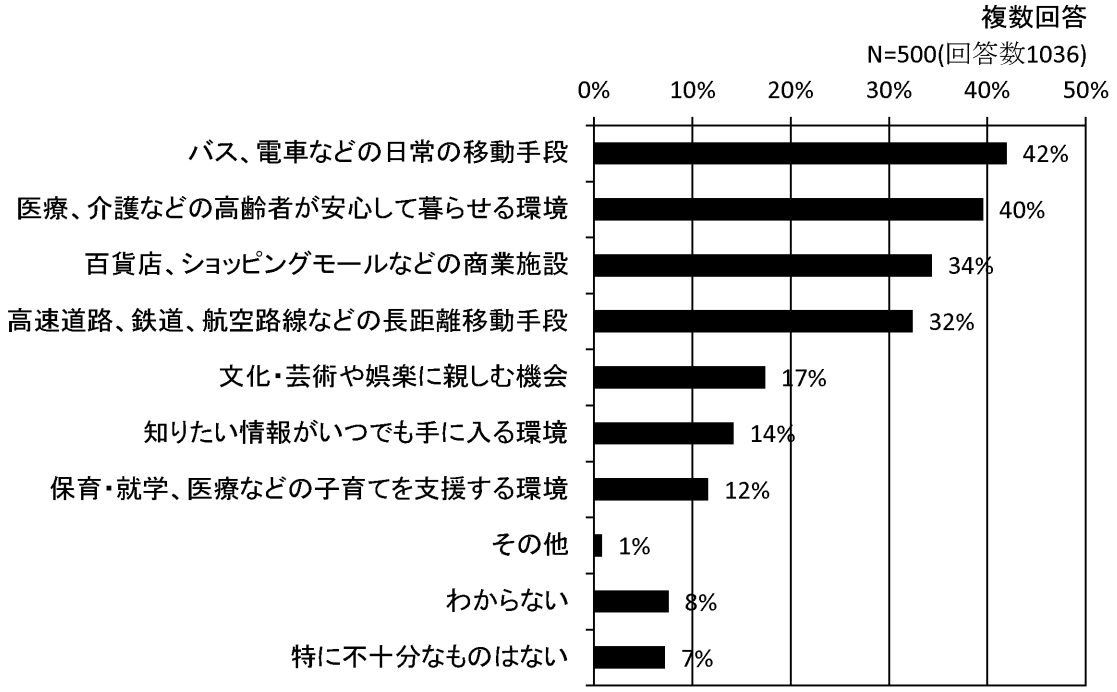


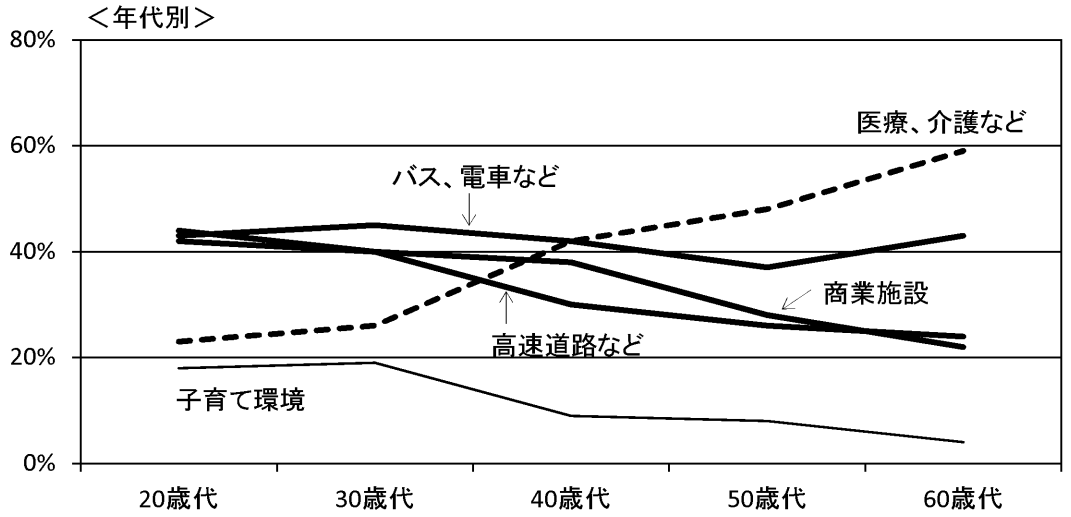
８．四国の生活環境

問）四国の生活環境で不十分だと思うものは何ですか。

・「バス、電車などの日常の移動手段」、「医療、介護などの高齢者が安心して暮らせる環境」が不十分とする意見が約４割と多い。

・「バス、電車などの日常の移動手段」は、各年代を通じて不十分と考える人が多い。若い世代では、商業施設や高速道路などを不十分と感じており、年齢が上昇するほど、医療、介護などの充実を求めている。



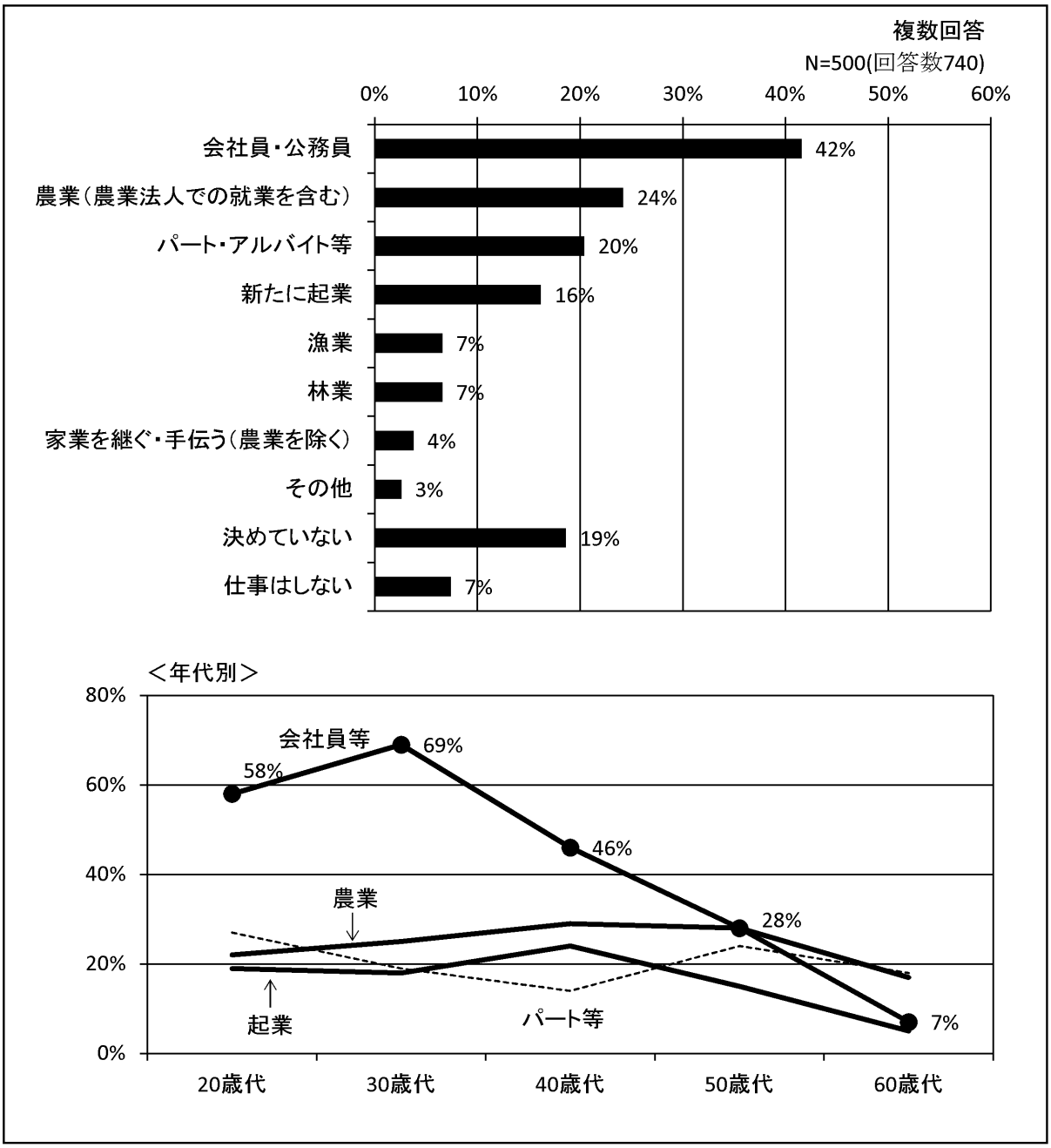


９．四国での仕事

問）四国に移住すれば、どのような仕事を考えていますか。

・「会社員・公務員」を希望する人が最も多い(42%)。特に、20歳・30歳代では６割～７割に達する。

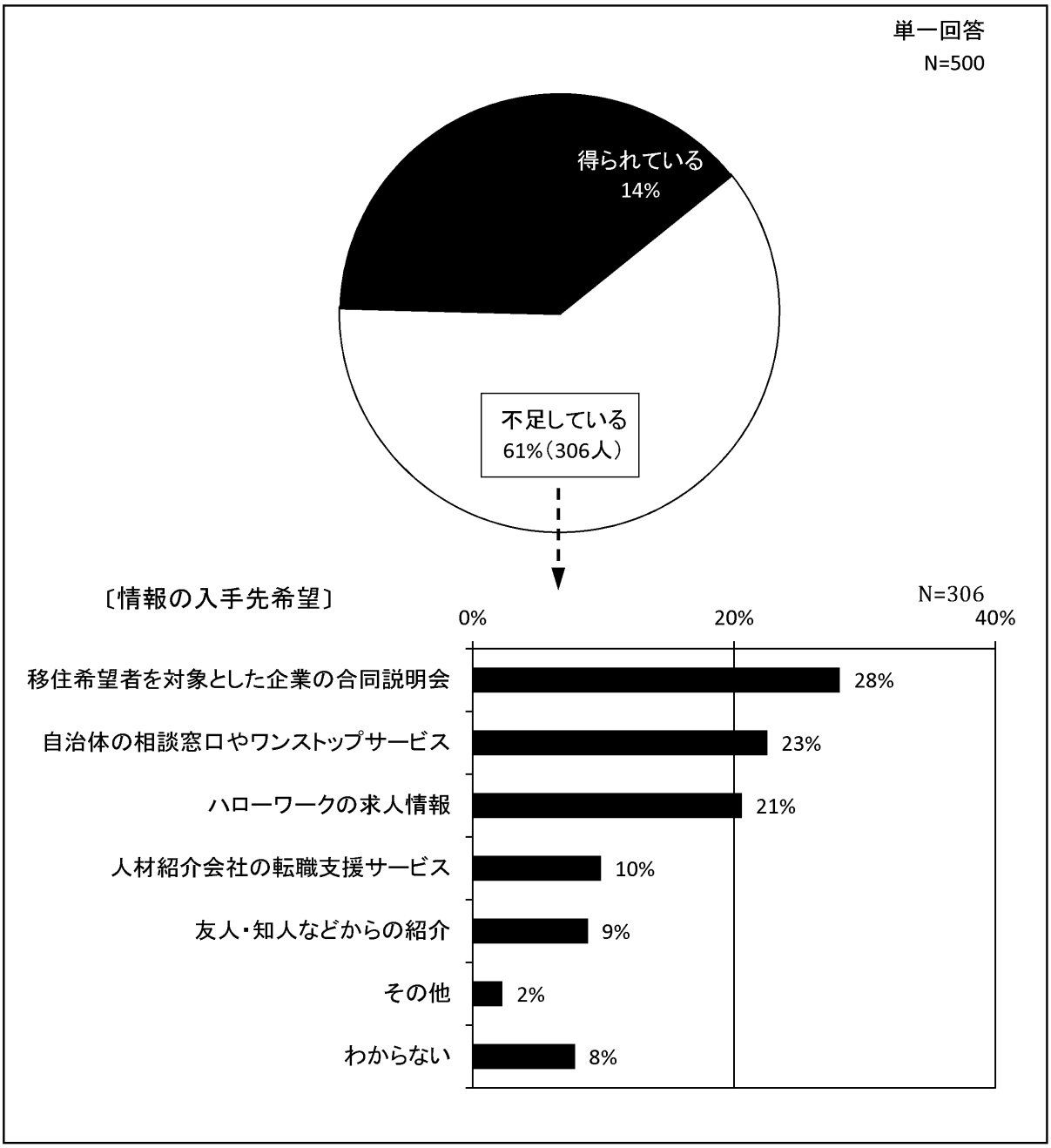
・農業に従事したい人は24%いる。新たに起業したいと考える人も16%おり、20歳～40歳代では２割程度いる。



10. 仕事に関する情報

問１）四国での仕事に関する情報は十分得られていますか。
問２）四国での仕事の情報を主にどこから得たいと考えていますか。

・約６割が情報が不足していると感じており、企業の合同説明会や自治体（相談窓口・ワンストップサービス）から、情報を入手したいと考えている人が多い。



Ⅳ　調査結果からの示唆　～人を惹きつける魅力あるまちづくり～

① 四国への潜在的移住希望者は多く、移住促進の取り組みを進めるべき

予備調査によると、大都市圏在住者のうち、地方への移住を考えている人は17%、四国を移住対象の一つと考えている人は3%余である。関東圏、関西圏に5千万人が住んでいることから、四国への潜在的移住希望者は十分いると考えられ、その顕在化のため四国の官民で取り組む価値は大きいといえる。

② 自然豊かな四国の強みを再認識し、これをベースにした地域づくりが重要

大都市の人にとって、地方に移住したい最大の理由は「自然豊かな環境で暮らしたい」である。また、四国の魅力として、「気候が温暖」「自然豊かで景色が美しい」「食材が豊富で美味しい」をあげる意見が圧倒的に多い。これらが四国の強みであることを改めて認識し、地域づくりに最大限生かす必要がある。

ただ、こうした魅力は四国だけでなく、西日本各地方ともアピールしている。今回の回答者のうち、移住先を四国に限定している人は２割にとどまり、大半は移住する地方を絞り込んでいないことを考えると、他地方との差別化、ブランド化を図り、四国の魅力に磨きをかけてゆくことが重要である。

③ 旅行体験は移住のきっかけともなる。住んで良し、訪れて良しの四国づくりが重要

四国を移住先として考えたきっかけは、旅行などで訪れた時の印象が良かったというのが４割を超え最も多い。実際に四国を訪れ、豊かな自然や、食、文化に接し好印象を持てば、四国への移住を考えることにもつながることが窺える。そのため、四国は観光振興の取り組みを一段と強化し、おもてなしなどの受け入れ態勢を充実し、「住んで良し、訪れて良し」の四国づくりを進める必要がある。

④ 雇用の場の拡大努力やマッチングサービスに加え、起業支援策も必要

大都市から四国への移住を実行するにあたり、特に若い世代では、収入や仕事に関する懸念が強い。そのため、産業の活性化をはじめとする雇用の場の拡大に努めるとともに、四国の仕事に関する大都市圏での情報提供機会の増大や、自治体等によるマッチングなど就業支援サービスの充実を図る必要がある。

また、四国での仕事として、会社員・公務員で働きたいという人が４割を超え最も多いが、一方で、新たに起業したいという人も２割近くいる。四国は高齢化問題をはじめ様々な地域課題を抱えており、そうした課題の解決を図ってゆくうえで、起業意欲を持った移住者の役割に期待できるのではないか。地方の活性化にとって、自ら道を切り開く人を増やすことが重要であり、コミュニティビジネスをはじめ、地域の課題解決に寄与する起業に対して支援策を進める必要がある。

⑤ 四国ならではの魅力あるまちづくりが人を惹きつける

大都市の人から見れば、地方移住による生活の利便性低下への懸念も強く、特にバス・電車などの日常の交通手段やショッピングセンターなどの商業施設が不十分と感じている人が多い。大都市との規模・集積で劣る四国としては、地方都市ならではの職住接近やコンパクトシティの推進、魅力ある商店街づくり等を進めるとともに、そうした魅力を発信する必要がある。加えて、高速道路や高速鉄道の整備、航空路線の拡充等を進め、大都市へのアクセスを容易にすることも、地方に不足する機能を補いつつ四国への定住を促す誘因となる。

また、中高齢層を中心に、医療・介護などの環境整備を求める声が強いが、四国は大都市に比べ人口当たり病院・介護施設数は充実しており、そうした現状を正しく伝えると同時に、高齢化先進地域として産・学・官・住民連携して課題解決に取り組み、より安心して暮らせる高齢社会を構築してゆくことが重要である。

こうした四国らしさと課題解決力を有した魅力あるまちづくりこそが、多くの人々を四国に惹きつけることとなる。